

タイのシトルリン血症赤ちゃん

- ◆ 出典：国際医療センター
- ◆ 発表日：2009年10月07日
- ◆ 翻訳：国際医療センター
- ◆ 訳文発表：2010年01月18日

2009年、台大病院は小児科、遺伝医学科、外科とチームワークを組み、合同でタイのシトルリン血症の赤ちゃんを治療しました。

シトルリン血症とは高アンモニア血症の一種です。2008年10月、生まれてわずか三日目の患者は昏睡状態になり、検査の結果、血液に含まれるシトルリンの数が高く、アンモニアはなんと $500\mu\text{mol/L}$ も超え（普通は $50\mu\text{mol/L}$ 以下）ました。患者はタイで腹膜透析治療を一ヶ月ぐらい受けましたが、アンモニアの数は全然下がりませんでした。やむをえず、ご両親はアジア各国の病院に尋ね、その中、台大病院は血液透析の治療経験が豊富だとお聞き、さっそく台大病院へ来ることにしました。

台大病院国際医療センターの手配で、患者は気管内チューブと呼吸器を装置したまま、地元の医師の随伴で飛行機で台湾に辿り着きました。そして、台大病院で検査を受けた結果、患者はアンモニアが $500\mu\text{mol/L}$ を超え、シトルリンも $3000\mu\text{mol/L}$ を上回り、しかも肝臓不全と呼吸不全さえも起こしてしまいました。この4キロしか体重のなかった小さい赤ちゃんに、心臓外科の医師たちは難なく順調に動脈カテーテルを挿入、血液透析を施しました。その夜、アンモニアの数はすぐ正常になりました。その後、患者は血液透析を3回受けて、血液凝固因子やアミノ酸などの注入で、症状がだんだん改善されました。三週間後、患者は無事に退院しました。そしてタイに戻ってから今日まで、再発することが一切ありません。

今まで、台大病院児童医療チームは小児腎臓科、小児心臓外科、小児集中治療科と小児遺伝医学チームの協力で、何回も先天代謝異常の新生児に血液透析を施しました。また、今回のような緊急転院の難しいケースが順調に完成できるのも協力してくれた当院各科のお手柄でした。そして、台大病院児童病院ビルの落成により、各科の統合も以前より執行しやすい状態になり、これからは遺伝性疾患や希少疾患の患者にさらなるを貢献して参ります。



治療前



治療後

